



島田青峰句碑(現在)
小出吟行に出発する一行。右から2人目が中川竹洞、4人目が島田青峰。十日町新聞社前にて。
(提供:十日町新聞社)

名勝“清津峡”の誕生（中編）～俳人・島田青峰の来遊～

1931（昭和6）年9月1日、当時東洋第1位、世界第9位の長さを誇る全長9,702㍍の清水トンネルが開通し、高崎～宮内間の上越線が全通しました。東京からもグッと近くなり、まだ「奥の景」などと呼ばれていた小出の峡谷も観光地としての発展が期待されました。その秋、十日町新聞社では東京から俳人を招待し、11月3日の明治節（明治天皇の遺徳を忍び、明治時代を追慕する昭和前期の祝日）に中越俳句大会を企画。前日には小出奥の景での吟行（和歌や俳句の題材を求めて、名所や旧跡に出かけること）に案内することになりました。

招かれたのは、十日町新聞俳句欄の選者を務めていた中川竹洞と島田青峰です。中川竹洞（ちくどう、本名:竹三、1892-1941）は、1912（明治45・大正元）年4月から翌年6月まで十日町新聞第2代主筆を務めていた、十日町ではおなじみの人物です。島田青峰（せいほう、本名:賢平、1882-1944、姓は正式には「嶋田」であるが、本稿では一般的な「島田」で統一）は三重県生まれ。1908（明治41）年から国民新聞社で文芸・学芸欄を担当。明治末から1920（大正9）年まで『ホトギス』の編集に参加し、この頃には俳句誌『土上』を主宰する第一線で活躍中の俳人でした。庶民文芸として俳句が広く親しまれていた時代に、「俳壇の巨星！青峰先生等来町」（『十日町新聞』10月5日、以下『十』と略）、「懸下の俳壇に異状なショック」（『十』10月10日）などと、彼らの来訪は大きな話題になりました。

11月1日の夕方、両名は越後川口経由で十日町に到着。翌2日朝、地元俳人や関係者らと新聞社前から自動車に乗り込みます。国道10号（現・国道117号）を南下して山崎で左折し、程島を過ぎてからは約1里を徒步で小出温泉に到着。峡谷の紅葉を探勝すると、清津館の2階で俳句を披露しました。吟行の顛末は、竹洞が「奥清津小出渓谷（一）～（六）」として面白おかしく綴っています（『十』11月5日～11月30日）。

3日の大会本番を終え、両名は5日午後に十日町を後にしますが、その後、両名の来遊を記念して島田の句を石碑にしようという話が持ちあがります（『十』11月15日）。計画は2年後の1933（昭和8）年、十日町新聞社の25周年記念事業として具体化しました。8月15日、高さ125㌢、幅66㌢の碑石が崖下の清津川から運び上げられ、十日町の石工、佐藤満蔵が島田の次の句を彫りつけました。

峡（かい）のそら日の渡りをる紅葉かな

句碑はもとからあった大きな自然石を台石とし、小出温泉の薬師堂境内に据えつけられました（『十』9月20日）。

句碑の建立を記念し、十日町新聞社では俳句を募集（『十』9月5日）。北は北海道、南は山口県、遠くは満州から、2500句以上の投稿が寄せられました。そして島田を招待し、11月3日に句碑除幕式の開催を決定。当日は小出温泉への日帰り団体ツアーも企画されました（『十』10月15日）。ところが、出発前日の11月1日、島田は準備中に突然発病。医師から安静を告げられて病床につき、除幕式は延期となつたのでした（『十』11月5日）。

5年後の1938（昭和13）年10月17日、その頃にはすでに「清津峡」の名が定着していた峡谷の入口で、除幕式があらためてとり行われました。式の様子は『十日町新聞』で「俳壇代表列席／盛んな句碑除幕式／青峰先生懇ろな謝辞／清津峡輝く」と報じされました（『十』同年10月20日）。この時に島田が詠んだ句も紹介されています（『十』12月5日）。

清津峡にて 島田青峰
蜻蛉とぶ峡の夕焼すさまじく
早紅葉の峡の碑に佇てり吾句碑に
早紅葉に照る夕陽の峡を去る

島田らの来訪で、清津峡は一躍脚光を浴びることになりました。しかし、1941（昭和16）年2月5日、島田は治安維持法に基づく新興俳句弾圧事件で検挙され、留置所で肺結核を再発。釈放後も回復せずに1944（昭和19）年5月31日に没。この日は「青峰忌」として夏の季語となっています。戦後の1946（昭和21）年5月19日、これも1941年に没した中川とあわせて、十日町新聞社により追悼句会が開催されました。

清津峡では、1982（昭和57）年6月、現代俳句の全国組織、俳句作家連盟の約100名が参集。会長・楠本憲吉の句をはじめ、新たに6基の句碑が建立されました。句碑群は、トンネルへ続く小道のすぐ右脇にあります。訪れた際には、しばし足をとめて往時を偲んでみてはいかがでしょう。



島田青峰と句碑（提供:十日町新聞社）

【参考】『十日町新聞 縮刷版』第五巻、第六巻、十日町新聞社

編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL／025-750-5100 FAX／025-750-5103
「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



8月のテーマ図書

祝・世界遺産登録決定！

佐渡島(さど)の金山



7月27日、インドで開かれていた

世界遺産委員会において、佐渡島（佐渡市）に残るかつての金山を主体とした産業遺産が世界遺産に登録されることが決まりました。これを記念し、金山をはじめ、佐渡の歴史や文化がわかる本を集めました。一般向けは2階カウンター近く、児童向けは1階スロープ前です。 [一般向け・児童向け]

2024年パリオリンピック・パラリンピック

7月26日から8月11日まで、パリオリンピックが開催中です。また、8月28日から9月8日まではパラリンピックも開催されます。オリンピックやパラリンピック、スポーツに関する本を集めています。場所は1階児童コーナーです。 [児童向け]

決定！第171回 芥川賞・直木賞

【芥川龍之介賞】

朝比奈秋『サンショウウオの四十九日』
(新潮社)

松永K三蔵『バリ山行』(講談社)

【直木三十五賞】

一穂ミチ『ツミデミック』(光文社)

第171回芥川賞と直木賞の選考会が7月17日に行われ、芥川賞に朝比奈秋さんの『サンショウウオの四十九日』と、松永K三蔵（けーさんぞう）さんの『バリ山行』が、直木賞に一穂ミチさんの『ツミデミック』が選ばれました。関連コーナーは、2階カウンター前です。貸出中の場合は予約の手続きをお願いします。



■児童向け

おばけ大集合

『おばけのまよなかアイス』、『妖怪のど自慢』など、おばけや妖怪が登場する本を紹介します。

虫、みつけた！

『昆虫が世界をくすぐる！』、『むしをさがそう』など、いろいろな虫が見つかる本を紹介します。



■一般向け

夏まっさかり

『つるっとラクうま！麺レシピ』、『夏への扉』など、夏まっさかりに読みたい本を紹介します。

短編フェア

『素敵な圧迫』、『東京ハイダウェイ』など、短くても奥が深い短編集を紹介します。



新着地域資料

『北村フミ子絵画作品集

NEW

百歳の母に捧ぐ

北村フミ子／画 2024.7

『あじさい公園誕生の記録』
NEW

風間栄光／著 2024.7



45年の歴史を数える市内八箇地区のあじさい公園。その誕生の記録をまとめた冊子『あじさい公園誕生記録 夢言・泣き言・笑い言』が、同公園誕生に尽力したひとり、風間栄光さんにより作成されました。

18年ほど前に長岡市中央公民館で講演した内容を新たにまとめたもの。風間さんは「まだ整備は夢の途中。四季を通じて楽しめる公園にしていきたい」と話しています。

スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その47

夏休み期間中、情報館、川西・松代分室で「みんなでつくろう うみのなか」というイベントを開催し、本を借りてくれた子どもたちと一緒に壁面飾りつくりに挑戦中です。さまざまな海の生きものが情報館の壁に色どりをそえています。どんな海ができるか、完成が楽しみです。

本を借りると、海の生き物を1匹選んで飾ることができます。みなさんの参加をお待ちしています。たくさんの生きものをすてきに泳がせてみませんか。



(小堺)

雑誌スポンサーになりませんか？

雑誌スポンサーとは、企業や団体から情報館で所蔵する雑誌の年間費用を負担していただく制度です。スポンサーとなった雑誌の新刊カバー、書架などには、企業や団体名、広告を掲載することができます。雑誌のジャンルにより対象を選ぶこともできます。情報館で活動をPRしてみませんか？

新しくスポンサーになっていただける企業・団体を募集中です。詳しくは情報館（750-5100）までお問い合わせください。



本のちから(5) ～中学生に読み聞かせ～

先日、中条中学校の全校生徒さんへ向けて朝の読み聞かせに行きました。

中学生に読み聞かせ?と、少し驚かれるかもしれません、情報館では乳幼児や小学生だけでなく、中学生のみなさんへも読み聞かせボランティアを派遣しています。幼い時期からスマホやタブレットに触れる時間が多く、「孤」「個」になりやすい今の時代こそ、みんなでひとつの物語を共有する体験が大切だと考えます。「朝の読み聞かせは心を整え、その日は1日気持ちよく過ごせた、授業に集中できた」などの感想もいただき、興味深いと感じています。機会をいただけることに感謝しています。

読み聞かせの選書は、いつも大変に悩みます。今回は星野道夫さんの『旅をする木』の中から、「アラスカとの出会い」「ルース氷河」を読みました。

『小学校では学べない 渋沢栄一のやりぬく力』

齋藤 孝/著 KADOKAWA (テーマ児童8 289シ)

7月3日に新紙幣が発行され、はや1カ月がたちました。みなさんはもう手に取ってご覧になったでしょうか?

おれに描かれている人ってどんな人なのでしょう。この本は、新しい一万円紙幣の肖像画の人物、渋沢栄一の少年時代から日本資本主義の父と呼ばれるようになるまで、実際にどんなことを経験して成長してきたのかがわかりやすくまとめてあります。

ぜひ親子で読んでみてください。

子ども読書活動推進コーディネーター 林 篤子



中学生のみなさんの感想を紹介します。

「言葉だけなのにオーロラの景色や雪が広がる場所を想像することが出来た。自分もその町に行ってみたいと思った。」

「一冊の本で人生が変わり、そのいくつもの偶然で人生は出来ているのに気付かされた。」

「人生はからくりに満ちている」という言葉にとても共感した

遠いアラスカの世界へ、季節も距離も時間も超えて旅をし、思いを巡らさせてくれたようです。改めて星野道夫さんの美しく優しい文章の持つを感じました。心豊かな中条中のみなさんと共有した朝の20分間は、とても厳かな時間でした。

8月18日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

スタッフのおすすめ本 (中山)



新着資料紹介 6月21日～7月20日分

【一般図書】

- 『読んでばっか』江國香織／著 筑摩書房(総記 019エ)
- 『宿帳が語る昭和100年』山崎まゆみ／著 潮出版社(紀行 291ヤ)
- 『自分の親に読んでほしかった本』フィリッパ・ペリー／著 日経BP日本経済新聞出版(中里 367ペ)
- 『北里柴三郎と感染症の時代』新村拓／著 法政大学出版局(自然 498シ)
- 『年をとったおかげです』中山庸子／文+イラスト さくら舎(松之山 590ナ)
- 『田舎の空き家活用読本』農山漁村文化協会(産業 611イ)
- 『はじめてのやせラン』三津家貴也／著 KADOKAWA(川西 782ミ)
- 『定命』瀬戸内寂聴／著 小学館(詩歌 911.3セ)
- 『プラチナハーケン1980』海堂尊／著 講談社(日文 913.6カ)
- 『古本食堂 新装開店』原田ひ香／著 角川春樹事務所(日文 913.6ハ)
- 『人斬り以蔵の道理』吉川永青／著 中央公論新社(日文 913.6ヨ)
- 『がん闘病日記』森永卓郎／著 三五館シンシャ(がん 916モ)
- 『関心領域』マーティン・エイムス／著 早川書房(外文 933エ)

【児童図書】

- 『知ると楽しい! 和菓子のひみつ』『和菓子のひみつ』編集部／著 メイツユニバーサルコンテンツ(児童一般 383シ)
- 『ざんねん? びっくり! 文房具のひみつ事典』ヨシムラマリ／著 講談社(中里児童 589ヨ)
- 『リリの思い出せないものがたり』たかどのほうこ／作 ポプラ社(児童日文 913タ)
- 『まほうのマーマレード』茂市久美子／作 あかね書房(児童日文 913モ)
- 『夜明けをまつどうぶつたち』ファビオラ・アンチョレナ／さく NHK出版(絵本 Eア)
- 『イリエワニ』関俊一／絵 福音館書店(絵本 Eセ)
- 『もりのはなやさん』ふくざわゆみこ／作・絵 Gakken(松代児童 Eフ)
- 『おとしましたよ』マスダケイコ／作・絵 PHP研究所(松之山児童 Eマ)
- 『いないいないぞう!』山村浩二／え 岩崎書店(赤絵 Eヤ)
- 『ちよっぴりながもちするそうです』ヨシタケシンスケ／著 白泉社(絵本 Eヨ)

【地域資料】

- 『大地の芸術祭 2024 越後妻有アートリエンナーレ公式ガイドブック』北川フラム／監修 大地の芸術祭実行委員会(大地芸術・各分室 T706ダ)

映画上映会『東京物語』

監督／小津安二郎

出演／笠智衆、原節子、杉村春子ほか

日時／9月29日(日)

①午前10時～午後0時20分

②午後2時～4時20分 (開場各30分前)

会場／視聴覚ホール 定員／各回先着90人

入場料／500円

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。

☆情報館事務室にて前売り券を販売します
※8月10日販売開始

【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】 プログラミング学習講座

プログラミングソフト「スクラッチ」を使用します

日時／8月3日(土)・4日(日) ※全2回

午前9時30分～11時30分

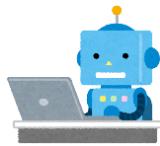
対象／小学校4年生～6年生

受講料／1,000円

定員／先着15人

会場／コンピュータ研修室

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。



閉架書庫を公開します

いつもは入ることができない閉架書庫（へいかしょこ）を公開します。ご希望の方は、当日1階カウンターでお申し込みください。

日時／8月18日(日) 午後2時～5時

【今後の公開予定】

9/15、10/20、12/15、2/23、3/16 (全て日曜日)

第91回名作読書講座

『蝉しぐれ』藤沢周平／著 (文春文庫)

東北にある海坂藩を舞台に、義父である下級武士の助左衛門を尊敬する牧文四郎が主人公の長編時代小説。

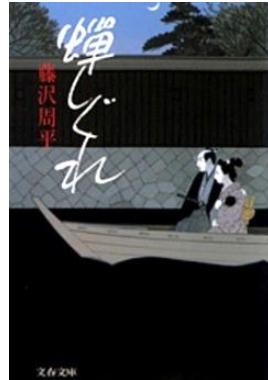
幼なじみの隣家のふくに淡い恋心を抱きつつ、剣術と学問に明け暮れる文四郎。しかし、父が藩の世継ぎを巡る陰謀に巻き込まれて切腹となり、生活は激変します。藩主の側室となったふくとも離ればなれになりますが…。

少年藩士・文四郎の恋と成長を描いた、藤沢周平の代表作です。

日程／8月22日(木) 午後7時30分～8時45分

会場／第1集会室 対象／中学生以上

定員／25人(申込み不要)



この夏読んだ、この1冊2024 みんなの読書感想画



大好きな本、心に残った本のイラストを募集中です！

募集期間 9月8日(日)まで



『ひまわり』 いまいひなたさん(6歳)

8月のおはなし会

◆情報館

3日(土)・10日(土)

／おはなしぴよぴよ(乳幼児)

17日(土)／読み聞かせの会 どんぐり

(幼児～小学校低学年)

24日(土)／おはなし「たまてばこ」(乳幼児)



◆川西分室

17日(土)／おはなしの会「ふきのとう」

(乳幼児～小学校3年生くらい)

◆松代分室

10日(土)／おはなしたんぽぽ(幼児～小学校低学年)

その他の催し

●原水爆禁止十日町市協議会 平和展示

日時／日時／7月26日(金)～8月9日(金)

会場／スロープ



●新婦人十日町支部

高校生の描いた「原爆の絵」展

日時／8月5日(月)～7日(水) 午前9時～午後7時

※5日は正午から、7日は午後3時まで

会場／ギャラリー 入場／無料

●フォト写楽 写真展

日時／8月10日(土)～20日(火)

※12日は休館日、20日は午後4時まで

会場／ギャラリー 入場／無料



十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日(当分の間)

特別整理期間、年末年始(12/29～1/3)

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103